# カクマルついに福島君虐殺を白状

## 虐殺者カクマルに血の復讐を!!

### カクマルついに福島君虐殺を追認

卑劣な沈黙を続けてきた反革命カクマルはついに一・二〇福島君虐殺を追認した。

一月二七日、横国大で投げ捨てられたビラでカクマルは「一月二〇日、京大においてたたかう」学友は、情宣中許しがたいことに敵対してきた中核派の部隊を断固として粉砕した」（カクマル「学生会議」）と一・二〇反革命虐殺凶行をついに追認した。

そして反革命通信で虐殺凶行をついに明らかにした。

「情宣中」などとぬけぬけというなんて何という卑劣な言い草だ。

カクマルは、自らのやったことが「正しい」とは言えず、こんなヒドイごまかしで責任逃れができると思っているのだ。

皆んなも見ただろう。吉田寮問題のクラス討論を訴えようとしたその時に、素面のカクマル白色テロリスト十一名が一人におそいかかり、鉄パイプで頭部を集中乱打し、虐殺しさったのだ。

傷は頭部のみだ。

まさに虐殺のための虐殺、テロのためのテロそのものではないか。

### これがカクマルのやり方だ

七五年三・一四反革命で不世出の革命家本多延嘉書記長に対して頭部のみを狙った白色テロルの虐殺を凶行しながら、権力やブルジョア社会にむかっては、「やるつもりはなかった」と弁明し、甘え、罪を許してもらう。

七四年五・一三法政大会戦で前進同志虐殺下手人カクマルＪＡＣは、「自首」と引きかえに権力の許しを得て放免されたのだ。

七三年早大生川口大三郎君虐殺に対して、カクマルは「あれは未熟な者がやった」と言って居直り、ひらきなおった。

そして、一切の後始末を権力、ブルジョア世論に委ね、責任回避してきたのだ。

### 日共の下手人＝カクマルかくし、中核派非難は破産した！

権力、日共や一部の赤ヘルが、虐殺下手人＝カクマルであることをあいまいにし、カクマルかくしをしながら、「内ゲバ」キャンペーンで逆に、かけがえのない同志を虐殺されたのだ。

### これがカクマル式「殺しの論理」だ

決定的証拠

今週、カクマルが、横国大でまいたビラ

京大でたたかう仲間の情宣活動にたいする中核派の敵対を粉砕

おいてたたかう学友は、情宣中許しがたいことに敵対してきた中核派の部隊を断固として粉砕した。

一月二〇日、京大に

# 中核派

京都市下京区寺町通松原上ル京極町497　前進社京都支局

えのない同志を虐殺された中核派に非難を集中し、権力の弾圧を要求してきた卑劣なやり口は完全に破産した。

いまや、一・二〇が何だったのか。カクマルとは何かが言い逃れできない形でハッキリと明らかとなった。

一・二〇反革命こそ、寮闘争、京大闘争が戦闘的学生運動の大爆発情勢を拓くことを恐れ、中曽根・動労カクマル松崎連合の大裏切りが全人民に暴かれるのを恐れ、三里塚・国鉄決戦の大爆発が中曽根に大打撃を与えるのに恐怖し絶望的危機にかられたカクマルの凶行したものなのだ。

カクマルこそ人民の敵、反革命ファシストだ。

七〇年安保、沖縄闘争が破防法を引き出し、階級闘争を内乱的、武装的段階におし上げたことに死の恐怖を感じてバリケードの外から白色襲撃で反革命に転落したのたがカクマルだ。

京大では、昨秋バリスト闘争に「官許のバリスト」と悪罵し、闘う学生に白色テロルをふるい、十一十一月決戦、三里塚・国鉄決戦の爆発を『権力のヤラセ』と悪罵し、敵対し、闘いの暴力的破壊に必死になってきたのだ。

破防法反対を闘う文化人に対して、「破防法と闘うな」と脅迫し、昨年、東京都議選においては杉並区民に無差別脅迫電話をかけ、支持者の区民の家に悪臭物を投げつけ、車を奪い、放火し、電波ジャックで妨害、敵対の限りをつくした。

これらすべてがK－K連合によって、革命派弾圧を狙う権力のカクマル容認のもとで行なわれているのだ。

こうしたカクマルに、全人民の弾劾の嵐が叩きつけられている。

カクマルこそ人民の敵、全ての京大生の敵だ。

## 反革命虐殺者への復讐戦は絶対正義

虐殺者カクマルを擁護し、中核派非難、追放を権力、当局に要求する日共・民青＝「C自」は、「内ゲバ」キャンペーンにおいて、虐殺者カクマルに対する《「血の復讐」を唱えているから、また「内ゲバ」がおこる、だから中核派を追放しろ》――とわめいている。

だが、この日共・民青の主張に説得性、真実は全くない。

死亡診断書（死体検案書）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 木村[illegible] | 男・女 | 年齢 満41歳 |
| 死亡年月日 | 昭和50年3月14日 | | |
| 死亡年月日時分 | 昭和50年3月14日 午3時30分頃 | | |
| 死亡の場所及びその種別 | 川口市[illegible]戸塚 1217 | 1病院 2その他の医療機関 3自宅 4その他 | |
| 死亡の原因 | 1 直接死因 | 鉄道事故 | 発見から死亡までの時間 |
| | 2 1の原因 | | |
| | 3 2の原因 | | |
| | II その他の重要な状態 | | |
| 手術の主な所見 | | 年月日 昭和 年 月 日 | |
| 解剖の主な所見 | | | |
| 外因死の追加事項 | 傷害発生年月日時分 | 昭和50年3月14日 午3時30分 | |
| | 傷害及び状況 | 今打撃のもとで鉄道を割られる | |
| | 傷害発生の場所（住所地番号） | 川口 | 1自宅 2職場 3その他 |
| | 傷害発生の状況 | 上記番地戸塚[illegible]の[illegible]線 | |
| 死後7日以内に死亡した場合の死因等（死因の推測） | 死因・分類に対する自分の状況 | | |

上記の通り診断（検案）する。 昭和50年3月15日

（住所）川口警察病院 廣木医院

（氏名）医師 廣木五郎

カクマルがベテン的な「殺しの論理とは無倫論」を裏づけるために宣伝してきた（本多書記長は）「三時間も放置され」「出血多量で他界した」たる説明が全くまったくデタラメであること，虐殺のための虐殺にほかならないことが疑問の余地なく示されている。

カクマルによる意識的虐殺を示す「死亡診断書」

それとも、『権力が取り締まってくれる』とでもいうのか。――全く否だ。

権力は七四年五・一三法政大会戦、前進同志虐殺下手人カクマル分子を「自首」と引きかえに事実上、無罪放免した。放免されたカクマルは、再び白色テロ虐殺のためにうごめいているのだ。

人民が実力で反革命を倒さぬかぎり、自らの身を守ることも、未来を切りひらくことも出来ないのだ。

復讐戦こそ、階級闘争の人民解放の決定的役割を果してきた。

暴虐な権力、反革命の白色テロ・虐殺に対して、復讐を決意しない人民は、解放を願うことも実現することもできず、永遠の奴隷になるしかないのだ。

三〇年代、フランスレジスタンスはナチス将校への赤色テロルに対する何十倍、何百倍という報復処刑にたじろがず、あくまでも反ナチ、レジスタンスを叩きつけたとき、はじめて、勝利の血路をひらいた。

アルジェリア解放闘争しかり、ベトナム人民は、肉親が米軍、南ベトナム反動政権に虐殺されたことへの怒りに燃え、復讐の民族解放闘争にたちあがった。

同志の死に対する復讐戦を誓い、たたかいぬくことではじめて階級闘争は発展してきたのだ。

だから、復讐戦は全く正義、当然だ。

復讐を放棄した時、人間的怒りも失い、人民は奴隷に転落する。

特高警察の天皇制テロルに同志を奪われ、虐殺されても復讐戦を組織し、たたたかえなかった戦前共産党の破産と敗北こそのりこえなくてはならないのだ。

## 虐殺下手人＝カクマルに復讐を！

いまこそ、虐殺者＝カクマルに怒りの復讐を。

カクマル弾劾、一掃、打倒はすべての京大生の課題だ。

日共・民青の「内ゲバ」キャンペーンこそカクマルを擁護し、たたかう京大生を権力に売り渡すものだ。

日共・民青の敵対粉砕！ 三一〇代大――ストへ！

## 虐殺のための虐殺 これがファシスト・カクマルの正体だ!!

反革命への復讐戦は絶対に正義だし、必要だ。

もし、反革命の白色テロ・虐殺に反撃しないとすれば、次々と闘う学友は反革命の白色テロルのエジキとなり、殺されていくのは火を見るより明らかだ。

# カクマルを擁護するのは警察と自民だけだ

## 中曽根の先兵＝カクマル

討議資料

### ■カクマル反革命言辞の数々■

『房総半島の片すみの三里塚』「『三里塚闘争』はウソとゴマカシの上に築かれた虚構でしかない」（八三年四月に横国大カクマルがまいたビラ）

『帝国主義国に対する『平和政策』の内実が転換し、先進国および後進国における革命戦略が『革命の輸出』方式として最後的に純化された』（反革命通信八三三号大浪論文）

『民営的手法の導入は必要』『絶対反対でストライキだといっても、最初から負けは決まっている』（松崎発言）

『破防法はみんなに関係するおおごとではない。労働組合の課題にならない。"思想・表現の自由を守れ"は時代おくれ』（破防法弾劾署名反対のカクマルビラ）

### ①三里塚二期攻撃の極悪の手先

▼七一年三月野戦病院軍襲撃

▼七七年四・一七京葉道路妨害

▼七七年五月鉄塔決戦「密約」デマ

▼七八年開港阻止決戦に「権力の演出」とデマ攻撃

▼七九年末、反対同盟への黒ワク封筒の送りつけ、脅迫電話

▼八一年八月、授農で活動家から収奪、農地は売ったとデマ

▼北原事務局長への謀略デマ攻撃

▼八五年三月北原事務局長の住民票を杉並に転出、マンガ的破産

▼八五年十・二〇戦闘の大爆発に「権力の"やらせ"」とデマ

### ②中曽根・杉浦と鉄労の手先・動労カクマル

松崎

▼「ストライキは最初から負け」「そもそも今の状況の中では…絶対反対でストライキだといっても、これはもう最初から負けは決まっている」

▼右翼労戦統一を積極推進

必要な先棒はかつぎます。

1-29 動労千葉スト

に悪罵投げつける

松崎：TBS報道特集で。

1.13

『スト権を留保してもよい』（松崎）

「労使共同宣言」国労除き合意

### ストは事実上放棄

●資料 4

77年5・29カクマル追放決議

三里塚反対同盟および支援諸組織

### 《三里塚の敵＝カクマル追放訴えた5・29声明》

あらゆる職場、学園、地域、戦線から革マル派を追放せよ

三里塚闘争に敵対する革マルを弾劾する声明

三里塚芝山連合空港反対同盟

三里塚芝山連合空港反対同盟は、十二年間にわたる国家権力とのたたかいにおいて、はじめてここに重大声明を全国に発する。

一、三里塚芝山連合空港反対同盟と、たたかう労農学は、政府、空港公団、千葉地裁、警察当局によって行われた反対派分断工作、鉄塔抜き打ち破壊と、東山同志虐殺に対して、満腔の怒りをこめて抗議、弾劾する。

人命を奪ってまで開港を急がなくてはならない理由がいったいどこにあるのか。

人と土を殺してきた空港建設は一国の政治の大失敗であり、ただちにとりやめるべきである。

敵権力による開港策動に対して、いまこそわれわれは、東山同志の道志を受け継ぎ、開港に向け、全闘魂をこめて戦いぬく決意であり、全国の同志諸君の激烈なる協力を要請するものである。

一、かかるたたかいを前にして、三里塚芝山農民と三里塚闘争の勝利をめざしてたたかうすべての労農学は、このかん革マル派によってなされた反対同盟と三里塚闘争に対する一連の重大な敵対行為を心底から怒りをこめて弾劾する。

一、革マル派は、機関紙『解放』（四六六号）において公然と、「公団、県警との合意にもとづいて、戸村、北原は鉄塔をあけ渡し」とか「正体を暴露した反対同盟幹部」などと、戸村一作委員長、北原鉱治事務局長をはじめとする反対同盟幹部を政府公団と内通する裏切り者呼ばわりするという、驚くべき悪らつなデマ宣伝を行ない、反対同盟に対する許しがたい分裂策動を行っている。さらに六日から八日にかけての東山同志の虐殺をとしてたたかわれた血みどろの激闘を、「権力、公団との裏取り引きにもとづいて「反対派」に一花咲かせるためにしくまれたもの」などと誰も信じないようなデマをもって闘いを誹謗中傷した。全人民の熱烈な支援のもとにたたかわれた鉄塔破壊弾劾、開港策動粉砕のたたかいに対するこのような卑劣きわまりないデマ宣伝をどうして許すことができようか。このような革マル派の敵対行為はいまや窮地においつめられた政府公団と内通し、三里塚闘争を破壊せんとする国家権力の手先に他ならないことを立証したものである。

一、しかも革マル派は、わが反対同盟と全国の労農学人民が権力の鉄塔破壊策動にたいして日夜たたかいぬいているときに、戸村委員長、石橋副委員長、北原事務局長にたいして「体に気をつけろ」などという電話を深夜にわたってかけ、同盟幹部を脅迫したのである。さらに四・一七大闘争当日においては、早朝、京葉道路の下り線（千葉＝幕張付近）に妨害用ダンプを放置し、大量の重油やクギをばらまき、全国各地からの三里塚現地への結集を妨害するという挙にでたのである。革マル派は一貫して鉄塔決戦を妨害しつづけてきたのである。

すでに周知のごとく革マル派は、三里塚闘争十一年の歴史に於いて、一度として敵権力、政府空港公団とたたかったことがないばかりか、機関紙『解放』で三里塚農民を「ボロクズ」「どん百姓」と悪罵し、また第二次代執行にたいする青年行動隊を先頭とした戦いと敵権力の悪辣非道の弾圧のさなかにあって、三里塚芝山農民のたたかいにたいして「警官殺し」とののしり権力の弾圧に手をかし、こともあろうに野戦病院軍を襲撃する等々過去一貫して三里塚闘争に敵対しつづけてきたのである。

一、われわれは、このような革マル派の敵対行為を絶対に許さない。

われわれが、東山同志虐殺という尊い犠牲をはらいながら血みどろになって勝利にむかって権力、政府公団と戦いぬいているいま、この戦いを指導する反対同盟幹部を敵権力との内通者であり、裏切り者であるとデマ宣伝し分裂を策動し、さらに六日から八日のたたかいを国家権力のしくんだものといいなす革マル派は、三里塚闘争の最も卑劣にして極悪な敵対者であり、憎むべき国家権力と公団の手先である。

わが同盟は、かつて日本共産党の分裂策動とたたかい、これを追放した。いま、われわれは激しい怒りをもって革マル派を弾劾し、三里塚闘争から未来永劫に追放することを確認するとともに、すべてのたたかう労働者人民が三里塚闘争勝利のために全国あらゆる職場、学園、地域、すべてのたたかう戦線において革マル派弾劾、追放のたたかいにたちあがられるよう熱烈に訴えるものである。

右声明する。

一九七七年五月二十九日

三里塚芝山連合空港反対同盟

革命的共産主義者同盟

革命的労働者協会（社会党社青同解放派）

共産主義者同盟（戦旗派）

共産主義者同盟戦旗派

共産主義者同盟（全国委員会）

共産主義者同盟（プロレタリア派）

共産主義者同盟（游撃革命戦線）

坂志岡団結小屋

三里塚木の根労働者学生共闘会議

三里塚闘争労学連絡会議浅川団結小屋

三里塚野戦病院

日本共産主義人民連帯

プロレタリア青年同盟全国協議会

労働者共闘・労働運動活動者群議会三里塚現闘団

# 白色テロ翼賛に高まる怒りの声

## 私は水本署名を撤回する

### 破防法弁護団襲撃の革マルは人民の敵

小西武夫

「何ものも真でない」
「すべては偽である」
この言葉は哲学者ニーチェの言葉である。
現在革マルが謀略、謀略と呼んでいる革マルの謀略論は正しくニーチェの言葉どおり「何ものも真ではない」「すべては偽である」と断言せざるを得ない。

目下東京地裁刑事七部に係属中の水本裁判に関して、知識人の署名の中に、私の名前が革マルの機関紙『解放』に記載されていたため、真に権力と闘って居られる中核派及び解放派の同志から厚い信頼を受け、弁護士として法廷闘争を闘い続けている私が何故水本問題で署名をしたのかと大きな不信と不安を与えた結果に対して現在私の軽率を深く自己批判し反省しています。

では何が故にエンプラ闘争事件の弁護人として十年間、革命戦士と共に法廷闘争を闘ってきた私が水本問題の署名をするに至ったのか。

私も、東京地裁に係属中の松尾破防法裁判の弁護団の一員であり、公判開廷前日東京の農林年金会館で刑事訴訟法に基く当然の権利として弁護団会議を開くのですが、その弁護団会議を革マルが襲撃したことがある（七四年一・一四破防法弁護団襲撃事件）ので、革マル派は革命派の敵であり「左翼」の仮面をかぶった反革命であることは身をもって体験している。

だから、「水本事件の真相を究明する会」からと称し、私の法律事務所に何回となく電話はかかるが、更に何回となく二、三名で夜間私の法律事務所を訪問せられ、水本事件は権力犯罪であり、現在本件の審理は非公開で行われているが、事件の重大性に鑑み、本件の審理を憲法三条に則り国民の前に公開されるよう要望する要望書を東京地裁に提出するのに添付するだけだから、署名を是非してくれとの依頼があったが、其の都度拒否していた。

強く自己自身をきたえたたかいぬく

前記の松尾破防法の弁護団会議という憲法、刑訴法上の弁護権に基く全く適法な会議までを襲撃する革マル派のためには署名出来ないし、仮に党派を抜きにしても基本的に弁護士としての使命として、確実な証拠に基づき客観的実体的真実を根拠にせずしては弁護活動は出来ない職責があるのに、東京地裁に現在係属中の水本裁判が如何なる刑事裁判であるのか、担当弁護人でないので知る由もなく、況んや水本の死亡事故の真相は現地の東京から遠く離れた佐世保在住の私には全く確認出来ないから軽々に署名することは出来ないと頑張って拒否し続けていたのである。

しかし、再度数名で夜間私の法律事務所に来られ、翌日の私の担当事件の依頼者が多数弁護打合せのため居られる際、長時間事務所にねばられ、また最後には権力犯罪を許すのか、弁護士は党派を超えて人間の基本的人権を擁護するのが使命ではないかと言われ、そう言われると正にその通りであり、特に権力犯罪に対しては生命も財産も投げ出して法廷闘争を闘い続けている反権力弁護士としては、それに対しては反対もできないのと、殊に私はキリスト者として「汝の敵を愛せよ」との言葉どおり仮令（たとい）敵であっても一人の人間の基本的人権の擁護のためなら署名することも許されるのではないかとの安易な軽率心から、遂に敵の署名要求に応じたものであり、現在では自己の軽率さと意志の弱さを深く自己批判し、もっともっと強く自己自身をきたえ上げねばならぬと反省しているものである。

革マル派は権力と正面から闘わない

革マルの「謀略論」は今や彼等の政治主張の中心になっているようだが、私が直接現地で体験したエンプラ闘争でも、松尾破防法裁判でも革マルは決して権力と正面から闘ったことはなく、権力と闘う党派の背後からそれを襲い組織拡大をはかってきた。

しかしこのような白色テロルには数倍の報復がなされるのは当然であって、そこで革マルは自らが敗勢になると「中核派や解放派は権力の走狗であり、権力の手先となって権力と協力しつつ革マル派を襲っている」と主張し、相手が権力なのだから革マルが敗けても当然だと自己を慰め、一方ではより兇暴な白色テロルを策動してきたのだ。従って彼らの「謀略粉砕闘争」は権力に対する闘いではなく、中核派や解放派への反革命襲撃の闘いである。真に革命を目指す党派が国家権力の謀略に対決せんとするならば、それは正しく直接に権力に対する闘いでなければならない。

このような革マルが必死でしがみついている水本問題は、革マルの内部リンチで殺されたか、消耗して自殺した水本の死を自分達の延命のために利用してゆこうとデッチあげたものとしか考えられない。

遺体が水本でないなら水本がどこかに生きている筈であるのに、水本の死を確信する革マルは実は水本の死の真相をすべて知っている筈だ。

私は「水本裁判の公開要求」という、弁護士として反対することの出来ない理由で署名に参加せしめられたが、其の署名直後東京から水本署名の真相を知らされ直ちに署名の撤回をしたのであり、革マルの謀略論の正当化のために弁護士として利用された己れの軽率さと意志の弱さを痛感している。

社会の大変革期には本件と同じような大衆振動のデマゴギーが跋扈する。

水本問題で多数の署名があったとすれば、皆、私と同様そのときは水本問題の真相を知らずに只、「権力犯罪による事件の真相究明と非公開審理の公開要求」という反対しようのない理由で署名された方々ばかりと考えられる。

従って最後に革マルの方々に申上げたい。

仮に革マルの謀計が革命を目指す党派であり、水本の死が国家権力の謀略によるものならば、何故生命を賭して国家権力と対決して闘わないのか。

水本の死の真実を知り、他の革命派を打倒する目的でありながら権力の謀略と称し、何故に真実を知らない一般大衆を欺瞞して之を利用してまで自派の延命をはかろうとするのか。

これ正しく謀略を呼ぶ革マル自らの謀略であり、一般大衆に対する重大な罪である。

水本の死の真実を一般大衆に知らせなさい。真実を土台としない組織はつぶれる。

（弁護士）

# JAC70人の武装襲撃を粉砕

## 和光大生五百怒りの包囲

## サー連総会で追放決議

（85年2月5日 和光大）

2・5

### 決議文

二月五日の旧社会思想研究会＝革マル派による和光大生への武装襲撃を断固糾弾していくとともに、今後このような革マル派の登場及び全ての武装攻撃を断固として許さない。

全学サークル連合秋季代議委員会参加者一同

総会では、カクマルのデッチあげユーレイ団体＝「社思研」が不法侵入して来た部隊をサー連にとりもどすことを決定した。一・三CE・F2各部室棟利用者会議決定（別掲記事参照）が報告され満場一致で承認された。また、カクマルによる連合四・一六武装襲撃、生活物資強奪・新歓破壊には生じる度重なる武装襲撃、十一・三CE武装襲撃・大学祭参加企画破壊、一・二五サー連B・F2部室棟利用者会議破壊が断罪された。

そして、総会はさらにこの日カクマルの武装襲撃を弾劾する討論に移った。負傷者カクマルにたいする怒りと弾劾の声が次々と行なわれた。自ら血を流してたたかったサークルは、ある者は血のにじむ包帯姿で、ある者は手当ても忘れてかけつけて発言に立った。サー連活動とサークルはにたいする執拗な妨害、白色テロ弾圧への怒りが表明された。

ところが、ただひとりカクマル弾劾に反対しつづけたのが日共＝民青スターリン主義者であった。「暴力一般に反対しよう」「中核派がいるから襲撃される……そもそも中核派は国民党本部に放火した反社会的集団」「革マルよりも中核派が怖い」などと口走る日共＝民青に、サークル員のゴウゴウたる弾劾がたたきつけられた。日共＝民青の敵対を粉砕し、「カクマル弾劾・撤去議」が会員一致で採択された。